

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.13

日時	2013年5月26日
行脚先	神利城
住所	兵庫県佐用郡佐用町平福（播磨国）
行事名	

## 特徴

利神城とは、因幡街道の宿場町として栄えた、利神山（標高373m）山上の山城です。平福は朝霧の名所であり、江戸時代初期には天守がありその姿が霧の上に浮かんだ偉容から雲突城とも呼ばれていました。現在では、石垣は残っているがかなりの部分で崩落しています。南北朝時代の1349年（貞和5年、正平4年）に赤松氏一族の別所敦範によって築城されました。城主は幾度か変わりましたが、1600年（慶長5年）の関ヶ原の戦い時点では宇喜多氏の所有でした。関ヶ原の戦いの後、播磨には池田輝政が入封し、1601年（慶長6年）輝政は甥の由之に平福領2万2千石を分与しました。その後由之は、5年の歳月を要して利神城を大改修しました。三重の天守を構え、曲輪を全て石垣で築き回廊で結び、山麓に城主屋敷、武家町、街道沿いに町人地を設け、城下町を整備しました。しかし、城を見た輝政はその豪壮さに驚き、江戸幕府の警戒を恐れて天守の破却を命じたとされます。1631年（寛永8年）、平福藩は廃藩となり利神城も廃城となりました。以後、この地には旗本松平氏の所領となり宿場町の一角に代官の陣屋が構えられたそうです。

## 黒田官兵衛との関わり

姫路城を現在の形に修築し、関ヶ原の戦いで黒田官兵衛・長政父子と東軍として共闘した池田輝政が入封し、甥の池田由之を城主としました。

## 記録

